

データ活用で進める 業務連携

コース番号：089-068

2025年

開催日時： **3月11日(火)** 募集締切：**2月25日(火)**
9:30~16:30 (6時間)

開催場所：ポリテクセンター山梨
 定員：12名程度 (先着順)
 推奨者：中堅層・管理者層

受講料
3,300円 (税込)

コースの狙い

所有するデータを経営資源として管理し、活用することで、社内外の業務の連携を強化できることを理解します。

主な訓練内容

◎ データ活用の基本

(1) データ活用の必要性

デジタル技術を駆使してDXを実行できるかが、企業の競争力強化、持続的成長の可否を左右する最重要課題として位置づけていることを確認します。

(2) データ活用のメリット【演習】

事例紹介を通じて、データを活用することにどのようなメリットがあるのかを確認します。

(3) データと情報の違い【演習】

「情報」を「データ」に「価値」を付加したものと捉える考え方を確認し、データは保有するだけでなく「活用」が重要となることを学習します。

◎ データマネジメント

(1) データマネジメントとは

正しいデータを、使いたいタイミングで使えるように、データを適切に管理する仕組みが「データマネジメント」であり、具体的には「データを蓄積しておく仕組みの構築や維持」「データ構造の可視化」「データの意味管理」「責任体制の確立」などがあることを確認します。

(2) データマネジメントの対象【演習】

データマネジメントの対象となるデータには「ビジネスデータ」と「メタデータ」の2つがあり、「ビジネスデータ」はさらに「構造化データ」と「非構造化データ」に分割できることを確認します。

(3) データマネジメントの4つの活動【演習】

データマネジメントの具体的な活動を「戦略策定・計画」「データの設計」「データ蓄積の仕組み構築・維持」「データ活用」に整理し、それぞれの概要を確認します。

◎ データ活用と業務の連携

(1) データ活用による業務連携【演習】

データ連携基盤が実現できた場合、①どんなデータを新たに収集して、②どんな情報を得たいかを検討します。

(2) データ分析ナレッジが溜まる仕掛けづくり

囲い込みされやすいデータ分析ナレッジを共有することの重要性、共有される仕組みを作る際の留意点を確認します。

○ 訓練内容のココがポイント！

・データ活用に関する基礎的な知識を習得し、異なるシステム間のデータを統合させ、より業務をやりやすく、情報を有効活用する方法により、自社で業務効率化に向けたきっかけを検討することができることを目標としたカリキュラムとしています。

実施機関&講師

学校法人

産業能率大学

総合研究所兼任講師

為近 智行氏



講師Profile

大手通信会社にて移動機開発部アプリケーション開発担当として、移動機内アプリケーション（デジタル著作権等）の開発やビッグデータを用いたスマートフォン利用動向分析に従事。独立後は中小企業に対してデータ活用、IT導入支援を行いつつ、研修講師として管理職を対象とした役割認識や部下育成、OJT等に関する研修を多数実施。

お申し込みは

※ 当HP内「令和6年度オープンコース第4弾受講者募集のご案内」の下部に、Excelで直接必要事項が入力できる「オープンコース第4弾受講申込書」があります。

